

福井県高P連会報

発行人 福井県高等学校PTA連合会
(福井県生活学習館「ユー・アイふくい」内) 揚原安磨



赤兎山から白山・別山を望む

【研究大会】開催される

去る十一月二十七日(土)、県内の高等学校PTAの関係者が集まり「研究大会」が開催されました。これは今年の福井県高P連が提唱した「県高Pデイ」と位置付けられた事業で、ここまで約半年務められた各校の本年度PTA会長の皆さんと、次年度を担う皆さんが一堂に会し、来年に向けた勉強会を行いました。各校からPTA担当の先生方、および校長先生にもご参加をいただきました。

研究大会の副題は、「～PTA会長は、たいへん(大事)な仕事なんですね。～」でした。

PTA会長職は保護者の皆さんからの負託を受け、いろいろな面で大変な仕事ですが、同時にたいへん大きな役割と意義を担つております。各校の将来のためにいろいろなことにチャレンジしていただく可能性を持ったお役目です。そのことを各校の会長という同じ立場、また本年度間で共有していただき、他校との情報交換や知恵・経験の相互支援を目指したものです。同期のPTA会長どうしの横のネットワークづくりにもお役に立つたかと思います。

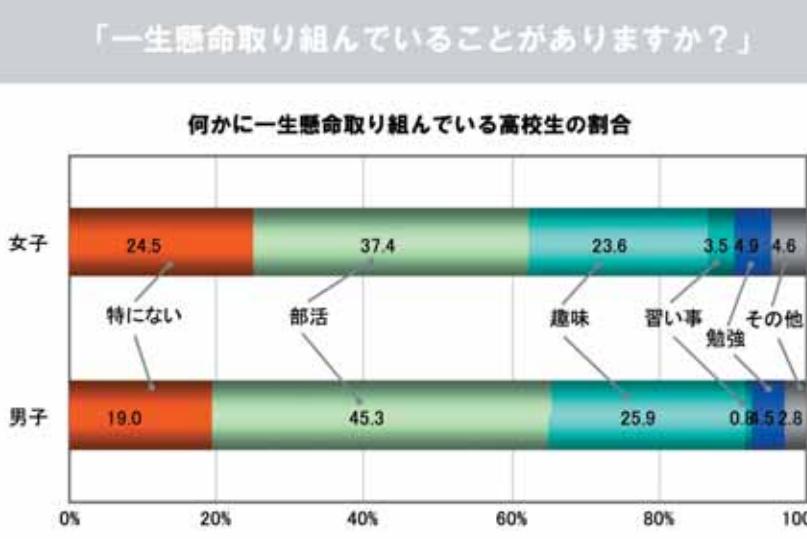
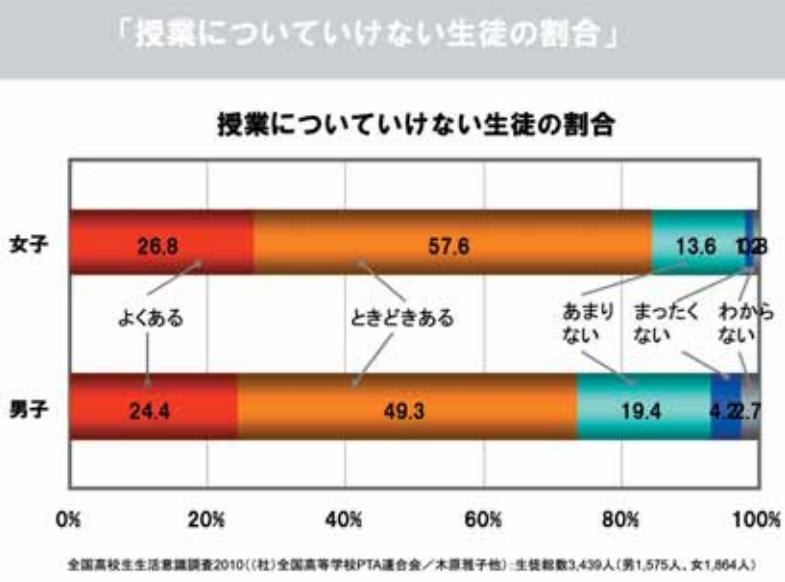
何事もゼロから考えるのでは大変です。現在行われているいろいろな物事には、先達の経験や知恵の結果が引き継がれていることが沢山あります。また一方で、習わしで継続していることをどこかで見直しした方が良い場合もあります。まず、自校の現状を知り、併せて他校の状況を聞き、違いや新しい発想から課題を見つけていくことが一つの近道でもあります。先日、ご協力いただいたPTA活動の実態調査の集計報告を基に、テーマをいくつかに分け、情報共有を図りました。十一月という時期に、次年度の皆さんに心の準備と課題意識をお持ちいただくことにも大きな意義があつたと考えています。

PTAに関わっていると、よく耳にする言葉に“共育”という言葉があります。完成された親などおらず、子どもを育てているつもりで、子育てを通して親自身が成長する機会ともなっているという意味だと思います。各校のPTA活動の中でも、会長や役員としてご尽力いただきました、ご苦労や経験の数だけ、喜びがあつたり何かしらご自身の成長に繋がるものもあつたりもするのではないでしようか。今後とも、各校の保護者の皆さん全員のご理解ご協力、ご支援を宜しくお願い申し上げます。

セミナー第一部 高校生実態調査報告会

「子どもの心を知つてありますか?」

→高校生のメンタルヘルスの現状と私たち大人にできること



科准教授
木原 雅子 様
て
い
ま
す
か?
ど
私
た
ち
大
人
に
で
き
る
こ
と
く
視
点
か
ら
—



最初に、去る十一月十八日に新潟市にて開催された全高P連主催「子どもメンタルヘルス向上支援 北信越地区シンポジウム」での、京都大学大学院医学研究科社会疫学分野准教授 木原雅子氏による基調講演のVTRが放映されました。

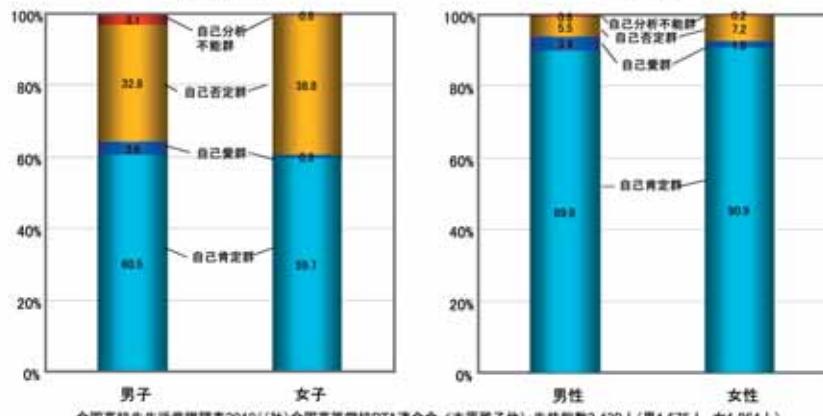
氏は、青少年に対する膨大な調査結果を基に、子どもの現状に応じた効果的な教育の開発を行つておられます。調査結果により、現在の子どもの抱えられるさまざまな問題の背後に共通して見が浮上してきました。そこで、失われ

た「人間関係の回復」を教育の根本にすえて、各種予防教育の開発普及に努めし、全国で活躍されています。講演は、全国の高校生約三千五百名・保護者約二千五百名を対象に実施した「高校生の現状」「意欲のなさの背景」についてのアンケート結果および考察

た「人間関係の回復」を教育の根本にから始まりました。「高校生の現状」では、授業についていけないと答えた生徒が八割で、自宅学習をまつたくしない生徒の割合とともに、年々増加しています。「一生懸命取り組んでいること」は、部活が

「自己肯定感」（高校生と保護者の比較）

高校生

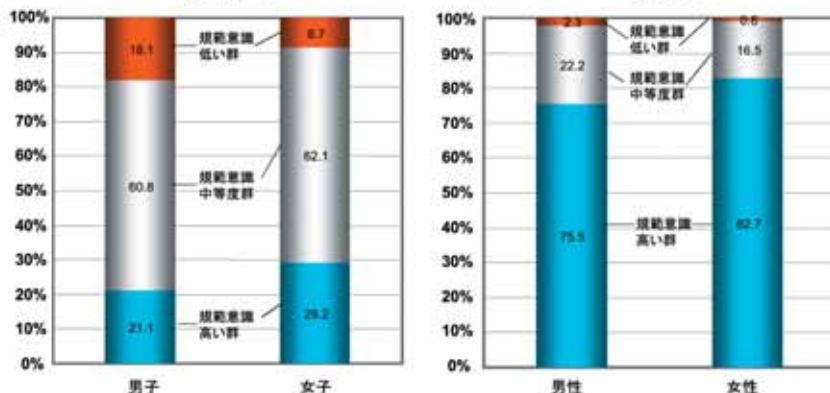


保護者

全国高校生活意識調査2010((社)全国高等学校PTA連合会／木原雅子他):生徒総数3,439人(男1,575人、女1,864人)

「規範意識」（高校生と保護者の比較）

高校生

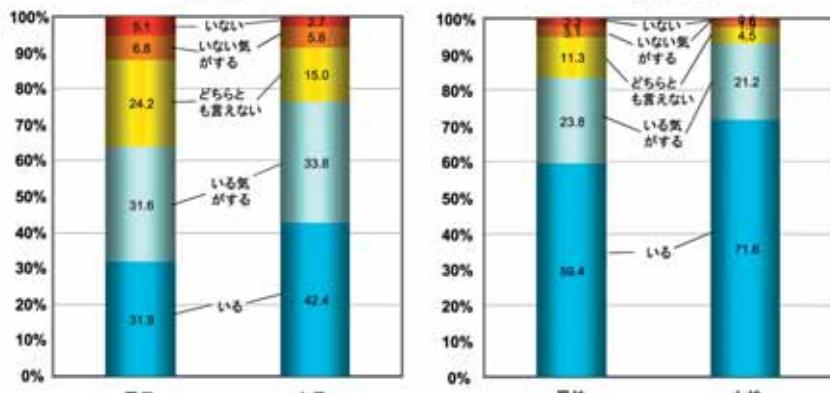


保護者

全国高校生活意識調査2010((社)全国高等学校PTA連合会／木原雅子他):生徒総数3,439人(男1,575人、女1,864人)

「本気で心配してくれる人の存在」（高校生と保護者の比較）

高校生



保護者

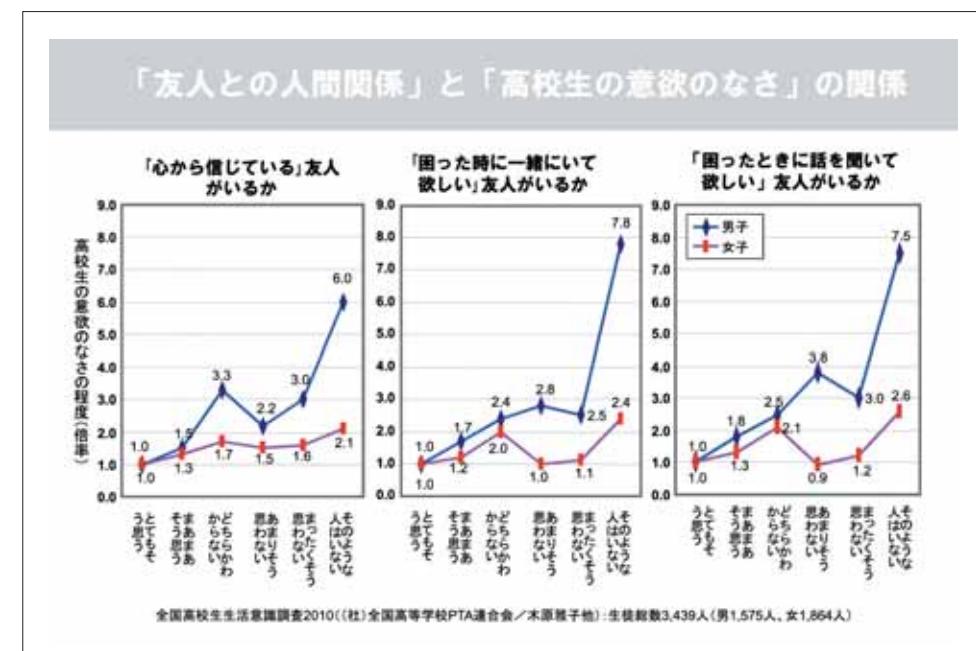
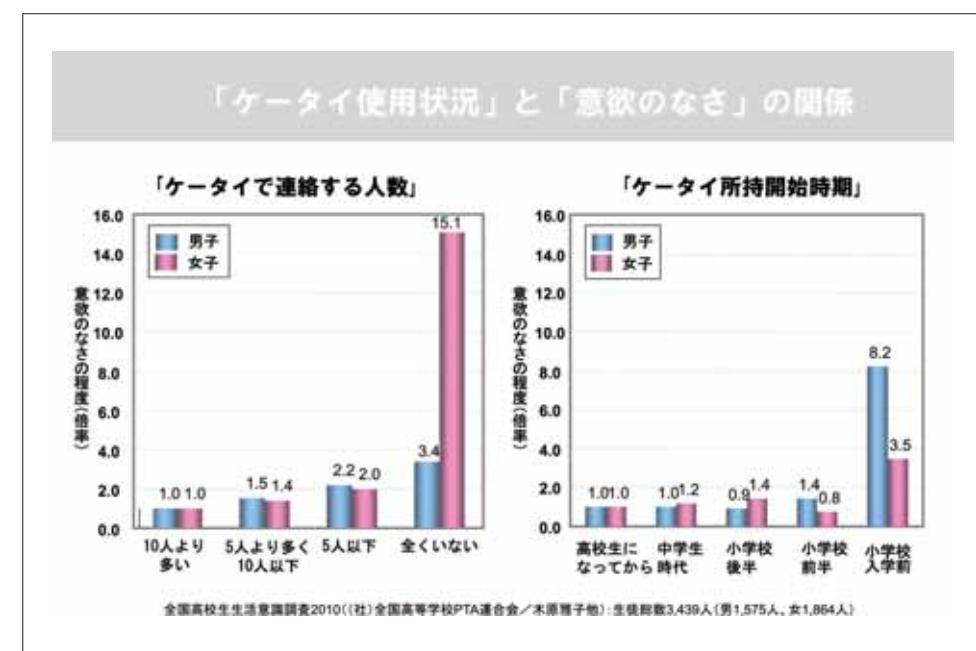
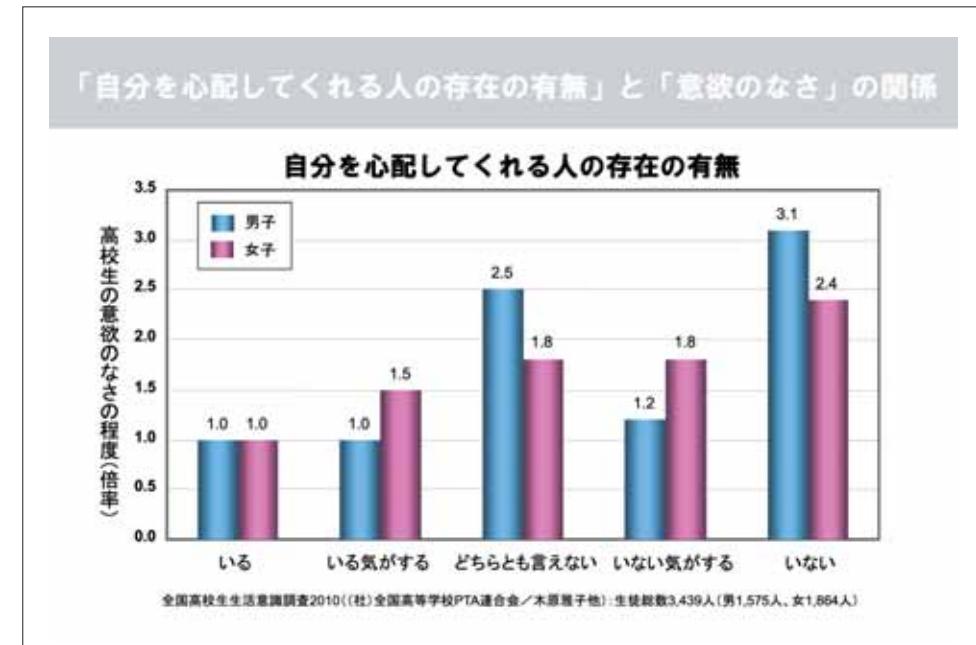
全国高校生活意識調査2010((社)全国高等学校PTA連合会／木原雅子他):生徒総数3,439人(男1,575人、女1,864人)

四割前後と最も多く、次いで趣味が二割強ですが、特にないと答えている生徒が二割程度いるのが気になります。

「自己肯定感」について保護者と比較してみると、保護者は九割と高いのに、高校生は六割程度に留まっています。同じように「規範意識」も保護者八割前後に對し、高校生は二～三割と少なくなっています。なぜ、親の「規範意識」が高いのに、子どもは低いのでしょうか？家庭生活の中で、親から子へうまく伝わっていないのかもしれません。「社会性」「本気で心配してくれること」について保護者と比較してみると、保護者は九割と高いのに、高校生は六割程度に留まっています。

次に、高校生の「意欲のなさ」についての調査結果ですが、携帯電話の使用時間が年々増加しており、特に女子

の依存度が高くなっています。さらに、携帯電話を持ち始める時期が若年化してきており、早く持ち始める子どもほど「意欲のなさ」の程度が大きくなる傾向が見られます。友達、先生、母親、父親との人間関係についてたずねてみ



信用できる人がいないと、高い数値を示しています。女子生徒は、信用できる先生が少ないと感じているようです。

氏は「今の高校生は、高校生としての自分を受け入れることができないまま、自分の居場所を探し、嬉しいと感じるのもなく、自分を心配してくれ

ている人たちの存在を感じないまま、携帯電話を握り締め、うわべだけの友達と付き合い、先生や親は流れていく風景と感じながら人間的つながりが衰えていく社会の中で、高校生活を送っている」と締めくくられた。

一見、社会は便利で暮らしやすくなつ

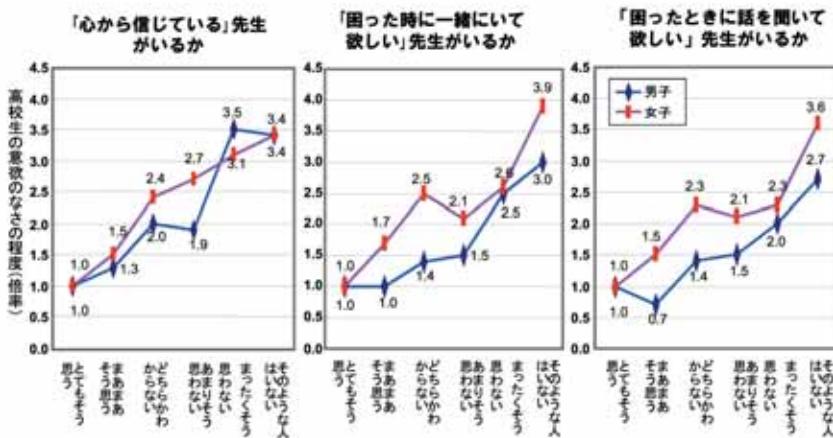
たように見えますが、その反面、子どもを取り巻く人間環境破壊が深刻になっています。

今も昔も、高校生は高校生。大人に子どももだつた頃があるように、大人のエゴだけで物事を進めてはいけないのでしょうか。

大人の本気の関わりは、子どもに必ず伝わります。子どもの未来は、わたしたち大人のやる気にかかるっています。

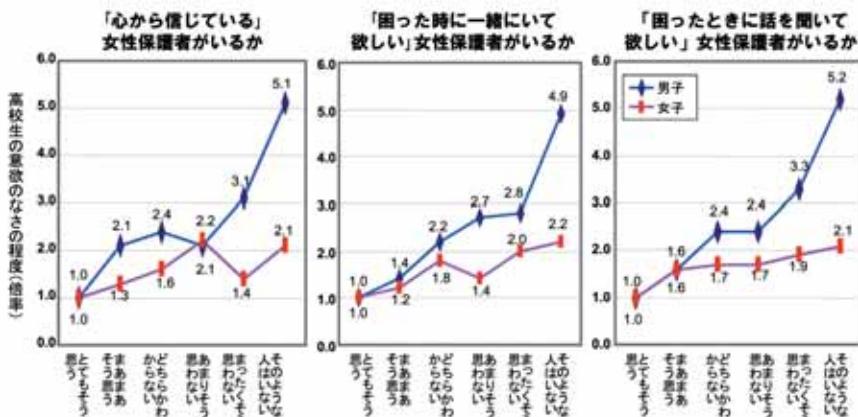
なお、この調査の詳細な結果は、報告書にまとめられ、来年三月に各校へ配布されます。

「先生との人間関係」と「高校生の意欲のなさ」の関係



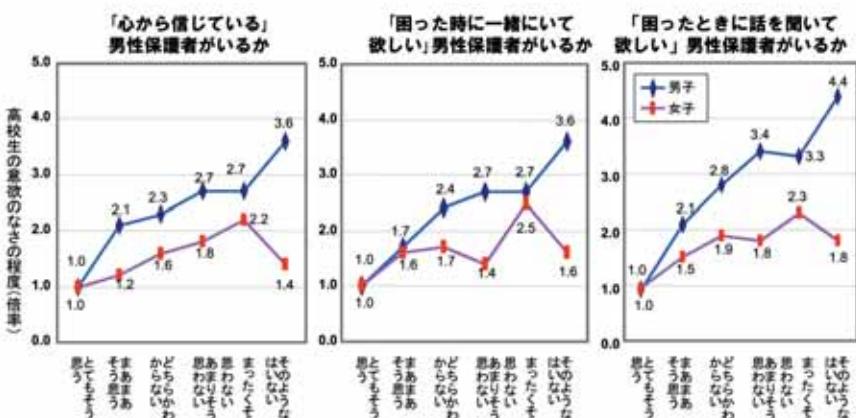
全国高校生生活意識調査2010((社)全国高等学校PTA連合会/木原雅子他):生徒総数3,439人(男1,575人、女1,864人)

「女性保護者との人間関係」と「高校生の意欲のなさ」の関係



全国高校生生活意識調査2010((社)全国高等学校PTA連合会/木原雅子他):生徒総数3,439人(男1,575人、女1,864人)

「男性保護者との人間関係」と「高校生の意欲のなさ」の関係



全国高校生生活意識調査2010((社)全国高等学校PTA連合会/木原雅子他):生徒総数3,439人(男1,575人、女1,864人)

セミナー 第二部 PTA活動実態調査報告会&情報交換会

♪ PTA会長は、大変な(大事な)仕事なんですよ

「生徒と保護者の為の 効果的・効率的なPTA活動」をめざして



午後からは「PTA実態活動調査報告会」と「情報交換会」が開催されました。各校本年度のPTA会長さん、次年度を担う皆様、校長先生又PTA担当の先生方百八名の参加の中で始まりました。

午後からは「PTA実態活動調査報告会」と「情報交換会」が開催されました。各校本年度のPTA会長さん、次年度を担う皆様、校長先生又PTA担当の先生方百八名の参加の中で始まりました。

最初に、川野調査広報委員長(啓新高校PTA会長)より、PTA実態調査に際して、会員各位の協力に深謝する旨の挨拶と、実施の経緯について説明がありました。

創意工夫をされている単Pもあれば、前年度の踏襲に終始されておるケースもあり、様々な活動があるように思いました。

三時間に亘るセミナーは、「組織について」「会計に関して」「各校の一押し事業、特色ある事業」の三部構成で開催しました。

セミナーに先立ち、揚原県高P連会長が、本研究大会の趣旨説明を行い、「本日は、日ごろ疑問や不安に思われていることを出し合っていただき、より自覚と自信を持つて、これからPTA活動を全うしていただくお手伝いができるかと思つていて」と話しました。

今回の調査は、「各校のPTA活動の実態開示」「情報の交換による、情報の共有」「单年度の活動ではなく、次年度に向けた継続的環境を、考える、創る」を念頭に設問を考え、県高P連として各高校のPTA活動状況を総括的に調査する初めての試みです。

会長の大きな悩みとして、次年度以降の会長をはじめ、役員のなり手がなかなか見つからないということです。成り行き上、役員を受けた後、「こんなはずでは……」という会長も多いのではないかと思います。また、会長が決定したとしても、引継ぎの時間が思うように取れず、前年の事業を踏襲し、会長として自分のやりたいことが

ます。現状を鑑みると、PTA活動は多くの単Pが「単年度制」をとっていますが為に、新役員による「事業の見直し」等も、時間的な余裕も無くPTA担当の先生方にお願いしているのが多いようです。特に「会計に関しては学校側に任せっきり」というのが実情ではないでしょうか。

「週末に開催する」「進路説明会、学級懇談会、公開授業などを開催し、学校に対する関心を高めること」等、殆ど

の学校で創意工夫をしていました。また特色ある取組みとして、吹奏楽や合唱部のステージ発表など、日頃の子供達の練習の成果を発表する場を設けている学校もありました。

まず、北野調査広報副委員長(高志高校PTA会長)による、活動実態調査の分析結果並びに説明の後、水上調査広報委員(武生高校PTA会長)の進行で、総会や組織の方など、各学校の悩みや苦労話を中心に議論が行われました。特に、PTA活動の根幹をなす総会への参加者が少なくなっている問題があります。参加率を高めるため

出来なかつたという問題も見受けられました。しつかり会長職を受け止め、「本来あるべき子どもの健全育成に組織をあげ取組むべきである」。その為には、事前準備と覚悟が大切だと結論に至りました。

第二テーマでは、藤本調査広報委員（美方高校PTA会長）の進行で、会員の関心が高い、会費や会計について話し合われました。PTA会費を筆頭に、部活動支援費、空調等の設備費、進路指導費、専門的な知識を身につけるための活動費など、学校の特徴によって多種多様な会費があることが、調査により解りました。生徒会費、図書費をはじめ、就職のための専門知識習得の為の会費、部活動が盛んで、大会の参加支援を手厚くする為の会費、学校環境整備費、進学の為の補習に当てるなど、其々の学校が特色に合わせて徴収しています。また、全国大会出場常連高等は後援会を組織し、特別に資金を徴収している学校もありました。一方地域ぐるみで、後援会を組織し部活動支援を行つている学校や、自治体が直接支援を行つている学校など、様々な

取り組みが行われています。また、PTAが中心となつて、空調設備を導入したり、食堂設置や購買の充実等、生徒が学校で生活しやすいように環境整備にも注力していることも調査により解りました。何れにしても、子供の為に、本来持つている学校の特色や、地域性を活かし支援体制を整えていることは、実感として伝わつてきました。

第三のテーマは、調査広報委員校（大野東高）PTA担当の齊藤教諭の司会で「我が校一押し事業」（自慢話？）について、和気藹々と話し合いが行われました。学校祭での模擬店（九校）・進路ガイダンス（四校）等の「校内行事参加型」、大学訪問を目的としたPTA研修旅行（三校）等「校外行事参加型」の二つに分類され、保護者の关心、子供への還元という、目的は満たしているように思いました。特色ある事業では、「PTAで講師を選定し職業探求講座」「親と子のフリートーク」「保護者による入試体験談のパネルディスカッション」「PTA就職模擬面接」「親子ボランティア町内清掃」などがあります。今後は、



強制参加ではなく、保護者が楽しめて、子供にも為になる事業を展開していくことが必要不可欠であるという結論に達しました。また、今後やってみたい事業として、「先生・生徒・保護者が本音で語る会」「卒業式前にスナップ写真の掲示」「通学指導」「あいさつ運動」等がありました。

最後に、「次年度の各学校のPTA会長予定者の皆様、PTA担当の先生方は今から『次年度の準備を始められるべきではないか』と結論づけたいと思う。今年度の会長さんも、是非とも次年度の会長さんをご支援いただきたい。福井県の高P連、各学校のPTA活動が将来に向けて進化し続けて欲しいとの願いを込めて、報告会を終了したい」と調査広報委員長が締めくくりました。

今回の調査は、全高校から回答を頂きました。紙面をお借りして、ご協力いただいたPTA担当の先生、PTA役員の皆様にお礼を申し上げます。

未来の福井を担う子どもたちを支援していくためPTAの連携を深め、連続性を持たせた活動をしていきたいとの思いを深めました。

丸岡高等学校

おじやましまーす!

この企画は、調査広報委員が直接「ちょっとおじやま」し、伺った話の中から委員独自の感性でこれはと思われるものを紹介していくものです。

丸岡高校は三年後に百周年を迎える伝統校です。校舎は少し坂を上がった高台に位置し、春は学校周辺の桜が満開となり感動するほど綺麗だそうです。また学校からは丸岡城をよい位置で見ることができます。秋には夕日に霞む丸岡城が情緒的です。訪れた日も偶然雨が上がり、夕日を背景に丸岡城がたたずんでいました。

丸岡高校は普通科十五クラス、朝課百七十名の生徒が「文武両道」を目指し、勉強・部活動に力を入れています。各学年二クラスが特進クラスで、朝課外から勉強に励んでいます。部活動も盛んで、全校生徒の八割以上が何らかの部活動に所属しています。中にはサッカー部や新体操部などを初め全国大会常連の部活動もあり、大きな成果を残しています。部活動加入率が高いせいか、生徒達は男女を問わらず廊下ですれ違うと元気に挨拶をしてくるので、とても良い印象を持ちました。

さてPTA活動ですが、やはり地元の生徒が多いせいか、役員の多くは、小学校や中学校から顔馴染みのといふことが強みだそうです。私も中村会長を始め何人も一緒に役員をやっていた人がいるので、特に親しみを感じました。活動は毎年各委員会ごとに企画を考え取り組んでいて、特にここ数年は



講演会・生徒と語る会

丸岡町には日本最古の天守閣を持つ丸岡城があり、その史跡文化財を継承していくために多くの方が何らかの形で携わっています。丸高生は学校祭などで素晴らしい企画力やパフォーマンスを発揮しているということで、その力を地域に向ける足がかりにならないかと開催したようとのことです。

「講演会」後は「生徒と語る会」が開かれ、「武将隊」の方々も甲冑を着たまま参加して頂き、生徒達は地元を大切にする気持ちを教わったようです。

また九月上旬の学校祭では、二年前からPTAで模擬店を出すようになり、今年はカレーライス、焼きそば、そしてペットボトル飲料を販売しました。学校祭期間中、かなり蒸し暑かつたは



ずですが、カレーライス・焼きそばとも大好評で調理が追いつかないほどだったようです。模擬店に携わった保護者の方々は汗だくになりながらも、生徒達と気持ちよく交流ができたのではないかと感じます。

他にも、生徒指導委員会では「夏季校外補導」を一回、「交通安全街頭指導」を二回実施し、生徒達の不良行為の未然防止、交通マナーを啓発する活動を行っています。「交通安全街頭指導」では、丸岡高校は坂の上にあるたどり滞をつくることもあり、これからは保護者への交通マナーの呼びかけもしていきたいとのことでした。

取材を通してお話を伺いながら、年々学校と保護者との関わりが少しづつ密になってきているようで、今後より一層PTA活動が盛んになつていくよう



交通安全街頭指導

敦賀気比高等学校

Introduction

小雨まじりの十一月九日、敦賀市西の丘陵に建ち、眼下に市街地を見下ろす最高のロケーションにある嶺南学園・敦賀気比高等学校を訪問し、高橋PTA会長、PTA担当の中野先生にご案内いただき、校内を散策しました。実際にゆつたりとした敷地の中で、ノビノビとした生徒たちに接し、私学らしい自由闊達な面を拝見することができました。

全校生徒六百十九名のこの学園は「時習・自律・慈愛」を建学の精神とし、「知・徳・意・体の調和のとれた人材の育成」の具現化をめざしています。お話の中でも「実社会でどれだけ活躍できるか。全国どこへいっても通用する生徒を育てたい」と、先生方からも相当なる熱意を感じた次第です。

「個を尊重しながら、師弟共に学び励む学園」をモットーにする同学園は普通科のみですが、特別進学、進学（美術、中国語専攻あり）・教養の三つのコースで構成され、特異なコースをもつことで、個性有る学風を育んでおられるのでしよう。特に土曜日学習として、生徒は隔週で登校して授業を受けます。又正規の授業以外に「夜学」といって希望者に無料で講座を開いたり、学校内で勉強する場所を特別に設置したり、進学に励む生徒たちの為に環境を整えておられる等、まさに師弟共に学びを実践し、私学の自主性を大切にしておられます。

「部活動は勉強と違い一人ではあります。部活動は勉強と違い一人ではありません。」

ません。先輩・同輩・後輩・顧問の先生・他校の生徒・観客など多くの交流があります。そこには人間関係における最低のルールが要求されます。部活動は知らず知らずのうちに人間教育をしてくれているのです。今はわからなくても社会に出れば理解できるでしょう。部活動の隆盛は大きな前進です」

との菊崎校長先生の指針のとおり、文武両道をめざしての部活動にも同学園はPTAと共に積極的に取組まれより良い在り方を追求されておられます。

同学園PTA（父母と教師の会）には、運動部・文化部すべての部活動を支援する「父母師会・部活動支援委員会」という組織を設け、支援活動を行っています。今回はこの特色ある委員会を取上げてみたいと思います。

まず各部活同好会の紹介ですが、運動部は何と言つてもプロ球界でも活躍中の選手を輩出している硬式野球部が有名です。又レスリング部、空手道部、硬式テニス部もインターハイ出場を毎年重ね、全国的な強豪校の一つに数えられます。特にレスリング部は県内でも特色ある運動部でしょう。文化部としては、中国語同好会、吹奏楽部の活躍が目立ち、特に中国語同好会は各種スピーチコンテストで優秀な成績を残していると聞いております。

こうした各部活動の支援組織として日常の支援・応援は勿論の事、紹介広報誌として同委員会は「エスペランサ（希望）」（写真）を発刊しています。二

〇〇〇年に保護者のみなさんが手書きで部活動の実態や、その特色、雰囲気等をユニークに綴り、新入生や保護者の方々に周知し、部活動参加に役立てもらう事を目的として始められたものです。

「学園生活の第一は勉学。そして部活動も青春の大変な、大きな一ページ」

と高橋PTA会長をリーダーとして、園の一年生部活動加入率八十五%以上と保護者、先生との共同支援体制があり、数字にも頷ける気がしました。

「運動部も文化部も、私達が忙しい時には、卒業生たちが指導に学園に来てくれるんです。巨人の内海投手や広島の東出選手も、オフには毎年一、二回後輩の激励に来てくれます。」

中野先生のお話の中に、厳しい部活動であつても先輩後輩のラインがしっかりと出来上がつており、一体感が今後の敦賀気比高等学校の校風であるのかもしれないと思いました。

「私学の灯 翔こう気比」の石碑に感銘を受けながらの取材でした。

（取材 啓新高等学校PTA会長川野和彦



部活動支援委員会「エスペランサ」



生徒が集う中庭



学園玄関前

キャリアガイダンス研修会 県高P連進路対策委員会



第一部は、福井で初めてコンビニ形式の店舗を開業された株式会社大津屋の代表取締役社長小川明彦氏による

「企業が求める人材とは？」と題した講演から始まりました。

氏の講演は「これからどの様な世の中になつていくのか一緒に考えたい」との言葉で始まり、「今高卒者の三年以内の離職率は五十%を超えており、大卒でも三十八%に登つていて。やつと採用した社員に辞められるのは、企業にとつても痛手で、社員教育をしても無駄になり研修に力を入れなくなつていて。職業系高校の卒業者は、十年前までは技能もあり採用していたが、現在は採用しない企業が増えていて。今は職業系高校であつても、進学教育に力を入れており、卒業後、即戦力にならず、どうしても大卒者を採用するようになつていて。企業は、洞察力、統合力、戦略力を持つた人を希望している。専門知識や様々な資格より、基本的なしつけや人間力を必要としている。研究や実験は好きだが、それを商品化し、販売して投資回収をするということができない人が増えている。研究を基にしてビジネス



第二部は、「藤島高校における進路指導」と題して、同校のPTA副会長嶋田祐子氏が発表されました。

「学校の進路指導は、一年次で職業観の育成、二年次では大学観の育成を方針としている。同窓会と協力して開催する『ようこそ先輩』、『PTA主催の進路研修会』の開催、『広報誌を活用した体験の共有』等PTAとして進路指導に関わっている。学校と連携・協力することにより、保護者の理解が深まり、子どもの意識も高まる。子どもたちが豊かな人間性を育むよう願っている」と話されました。

キャリアガイダンス研修会・健全育成講演会 平成二十一年十月七日(木)

県高P連健全育成委員会

は、法律上禁止されているが、興味本位でアクセスして被害にあつている例が多く、被害者の殆どが女性である。

身を守る『見ない』『書き込まない』『絶対に見えない』この三つのNOが大事。

引き続き、「サイバー犯罪の罪状」と題して県警本部生活安全部生活環境課サイバー犯罪対策支援室長 警視 佐藤寿記氏による講演が行われました。

氏は、「親は、連絡を取るために子どもに携帯電話を持たせるが、子どもは、それを巧みに操つて、情報を取つたり発信したりしている。しかしそれは、それを巧みに操つて、情報を取つたり発信したりしている。しかしその発信している情報は世界中に流れていき、時には悪用されることを忘れてはならない。子どもは、楽しんで使用しているが、大人はそれについていけないのが実情。現在、七十八%の国民がインターネットを利用している。携帯電話も殆どの高校生が持つておらず、ブログやプロフにアクセスしたり、情報を発信を行つたりしている。

『IDおよびパスワードは、絶対に他人に教えない』『個人情報は載せない』『怪しいところには近づかない』『書かれていることを鵜呑みにせず、情報を選択する能力をつける』ことが大切と』話され、最後に「インターネットは自由に発信できるが、自分の身は自分で守らなければならぬ。モラルを守つて使えば大変便利なもので、子どもたちにはルールを決め

それに伴い、サイバー犯罪の相談も多くなっている。最近は、不正な料金請求の相談より、ネットへの書き込みによる誹謗中傷に対する相談が増えていている。サイトを通じて仲良くなり、個人情報を流してしまう。仲が良いうちは良いが、悪くなつた時に、相手のアドレス等や悪口を書き込みサイトに流すという事例もある。福井県でも検挙数が増えてきている。

十八歳未満の出会い系サイトの利用



て利用させ、フィルタリングサービスの利用も重要なこと」と結ばれました。

嶺南地区

開催日 九月十一日(土)
会場 三方青年の家
講演 「社会が求める
コミュニケーション能力
～大学の現場から～」
仁愛大学人間学部

コミュニケーション学科
教授 金田 明彦氏

実践発表
「子どもの健全な育成を願つて」
美方高校PTA会長

藤本 齊氏

嶺北地区

開催日 九月十八日(土)

会場 生活学習館 映像ホール
講演 「企業が求める人材とは」
～福井大学における
就職支援の取り組み～

福井大学学務部就職支援室長
青山 傳治氏

実践発表
「高校を卒業したから
終わりじゃない」
～就職探求講座～

三國高校PTA会長
小田原幸浩氏

「本校のPTA活動について」
～心を育む取り組みを通して～

科学技術高校PTA会長
富田 賢司氏

県教育長との懇談会

十一月二十二日(月)、県庁十一階の教育委員会室で当連合会からは理事会の役員等八名、県教委からは教育長以下五名が参加して、みだしの懇談会が開かれた。

冒頭に、揚原安麿会長は、形式的な会議ではなく、忌憚のない生の意見を交換し、県教委と力を合わせて高校教育において大きな成果を出していきたいと抱負を述べ、続いて広部教育長から県内の教育情勢に触れ、高P連と意見を交換しながら対応していきたいとの見解を示された。

懇談の内容は、①本県の教育投資回収作戦について、②県下各校の統廃合と再編の中での、特色ある個性化について、③新しい教育手法への取り組みについて、④「文化振興」と高校生の舞台に立つ経験について、⑤就職希望者の自己実現のため産業界への働きかけについて、⑥公立私立の調和を図った入学定員について、であった。

紙面の都合で、①②について、懇談の内容をいくつか紹介したい。
まず①については、
・「福井帰巣教育」では、産業労働部で県外から福井へ無料バスを出し、大學生の就職活動を支援している。

・冊子「実は福井の技」を工業系と理数科の二年生全員に配布している。普通科等はクラスに五冊常備している。

・高校生は平成元年度をピークに、平成二十一年度の出生者は約半分となる。奥越地区、坂井・福井地区、丹南地区、二州・若狭地区のブロック分けをして検討している。

・来年四月開校の奥越地区は、モデル地区になるように取り組んでいる。次ぎに、二州・若狭地区に着手する。ただ、小浜水産高校はギリギリの定員の状態である。

・地元の意見を聞きながら、地域の文化を大事にして進めたい。また、地元での説明会を開催していきたい。

・普通科は、当面、募集定員の減少で対応する。

・各地区の意見を聞きながら進めるが、OBなどから利己的な存在を求めることは避けていただき、県の将来を考えた大局的なものを考えていただきたい。

・この学校に来て良かつた言われる学校を作つていただきたい。

トライア生活体験研修は、八月四日(水)から八月十八日(水)までの十五日間、オーストラリア・クイーンズランド州のブリスベン市郊外のクローズ・ネスト市とナラングバ市で、嶺北養護学校の高津和幸先生とISAの北岡真弓先生が引率をして実施した。

今年は、本県からの十四名と石川・富山県の八名が合同しての団体となり、全体を二つのグループに分け、クローズ・ネスト高校とナラングバ・バレーハイスクールで研修となつた。

週末はホストファミリーと交流を深め、ドリームワールドやゴールドコーストのビーチ等をも訪ね、大自然の雄大さを堪能し、皆、一まわりも二まわりも成長して元気に帰国しました。

この研修の成果を今後の高校生活や進路選択等に最大限生かしてほしいと願っています。

△今号は、十一月二十七に開催された「研究大会」の内容を七ページに亘って掲載いたしました。「高校生実態調査」「PTA活動実態調査」の結果等、単P活動にお役立ていただければ幸いです。

事務局所在地

〒九八八三 福井市下六条町一四一
福井県生活学習館二階
TEL 〇七七六一四一四〇五三
FAX 〇七七六一四一四〇三三